

4 本柱でサステナビリティ活動 品質コンテストなど多岐に展開



▲「ベレテ・ゲラ・フォレスト森林保全プロジェクト」で指導にあたる UCC 上島珈琲の中平尚己農事調査室室長

UCC グループは、20 年 1 月に新設された UCC ホールディングスのサステナビリティ推進室が司令塔となり、「生産国との協働」「コーヒーの価値創造」「環境活動」「責任ある事業活動」を柱にサステナビリティ活動に取り組んでいる。

この内、「生産国との協働」と「コーヒーの価値創造」が“カップから農園まで”一貫した事業展開をしている UCC ならではの取り組みとなる。

UCC ホールディングスの里見陵サステナビリティ推進室長は、「生産国との協働」の好例として、JICA（国際協力機構）とともに活動している「ベレテ・ゲラ・フォレスト森林保全プロジェクト」を挙げる。

UCC によると、近年、エチオピアでは急激な人口増や森林伐採などで森林地帯が国土の 35% から 11% 程度まで減少して危機的状況にある。

JICA は森林生態系保全のため 03 年に同プロジェクトを立ち上げ、UCC は JICA からの依頼を受けて 11 年から現地で技術指導にあたっている。

「コーヒーの源流であるエチオピアで、森林保全と生産者が収入を得られることの両方を紐付けて、UCC 上島珈琲の農事調査室の専門部隊がかなり深く関わり森林の保全にまで取り組んでいる」と里見室長は説明する。

活動の効果は如実に現れ、ベレテ・ゲラ保護区における年間森林減少率の改善や農家の収入改善に寄与している。これに伴いコーヒー生産量も増加し、日本でもレインフォレスト・アライアンス認証の「エチオピアモカ ワイルド ベレテ・ゲラ」の製品名で出回っている。

「生産国の課題を解決して消費国で製品として

販売する。まさに持続可能な取り組みということで JICA 様からも森林保全に非常に効果が高いとのご評価をいただいている」と語る。

生産国の協働としては、01 年のブラジルを皮切りに現在 6 カ国で実施している品質コンテストも特徴となっている。

「生産者に永続的に品質の高いコーヒー豆を生産していただくことを促す取り組みで、コンテストを通じて、高く購入したり賞品を出したりしている」という。

UCC ではダイレクトトレードは行っておらず、品質コンテストで選ばれた豆を高く購入する場合は、商社などを通じてプレミアムをのせて購入する意思を伝える。

その点が国際品評会「カップ・オブ・エクセレンス（COE）」と異なる点で、さらに異なるのが、今年から評価項目の 20% にサステナブル視点を設けた点。

「サステナビリティ活動にどこまで力を入れているかというのは、消費者の選択肢の 1 つになってくるとみており、品質の一部として評価させていただく」との考えの下、評価項目に農業視点（農薬の管理や土壌保全など）・環境視点（生物多様性や水質保全など）・社会視点（労働環境など）・トレーサビリティが新たに加わった。

品質コンテストの活動では、品評に留まらず技術指導にも踏み込み、これも UCC ならではの活動といえる。

環境面の喫緊の課題については、気候変動・社会問題・サステナビリティの意識の低さ——の 3 つを挙げ、その改善に貢献すべく取り組んでいく。